

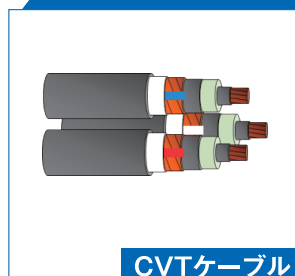
## 高圧ケーブルの重要性

電力会社より高圧電力を引込む際は敷地内の電柱(構内1号柱)やキャビネットから、高圧受変電設備(キュービクル)に電気を送るために高圧ケーブルを使用しています。

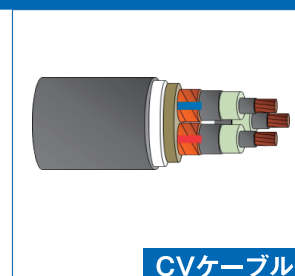
高圧ケーブルは高圧設備においてもっとも広範囲に敷設されますが、敷設方法も埋設や架線、建物内の配線など、目視による確認が困難で故障のリスクも多いため、停電をひきおこす可能性が高い設備です。

高圧ケーブルは経年劣化や、腐食などで損傷すると停電が発生するおそれがあります。(PASなどの開閉器が設置されていないと周辺一帯を停電させる波及事故になります)復旧にはケーブルの交換が必要になり、長時間を要します。

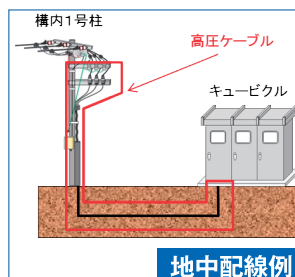
更新推奨年数 CVT:20年 CV:10年



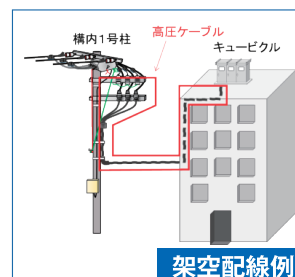
CVTケーブル



CVケーブル



地中配線例



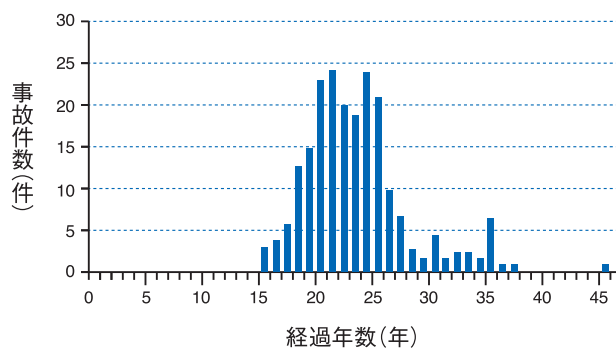
架空配線例

## 定期的な更新で事故を防止

関東東北産業保安監督部の統計データによると、設備事故の約4割がケーブルに起因するもので、ケーブル事故に関しては、右グラフのように設置後15年から事故が増加傾向にあります\*。

高圧ケーブルは CVT・CVといった種類があり、設置環境で更新目安が異なります。目視では確認ができず、腐食箇所の判別が困難なため、更新推奨年数や停電点検の結果を目安に設備更新をお願いします。電気管理技術者にご相談のうえ、適切な時期に設備更新を行ってください。

\* CVTケーブルとCVケーブルの合算データであり経過年数20年より前の事故の大半はCVケーブルです。



(経済産業省関東東北産業保安監督部統計データより)

期間: 2006~2012年

更新を怠った結果、こんな事故も・・・

## 高圧ケーブル劣化による停電事例

- 高圧ケーブル(CVT) の製造年: 1990年1月(製造から28年経過)
- 事故原因:

経年劣化によりケーブル外被・端末から水分が浸入し絶縁が破壊。高圧ケーブルから漏電(地絡)し、事業場が停電したものを。

PASが設置されており、事業場のみの停電で済んだが、発生時期がお盆中で工事業者が見つからず、他県から出動を要請したため復旧までに13時間を要した。

